

American 食 Life

五百川優子

アメリカ留学と聞いて、授業はどんな感じなのだろうか、日本人以外の友達ができるか、アメリカ式の生活はどうなのだろうか、意思の疎通がきちんとできるのだろうかなど、たくさんの不安が浮かぶと思います。授業にうついていけるかや友達作りは、はっきりいってしまえばその人の努力次第です。しかし努力ではどうすることもできないものもあります。それが食でした。アメリカ食と言えば、ハンバーガー、ポテト、ピザなどを思い浮かべる方が多いでしょう。その通りです。私はほぼ毎日フライドポテトを食べていました。白米や生野菜があまり美味しくないため、口内炎に悩まされる日々を送った時期もありました。しかしピザやブリトーは美味しいものが多く、サンクスギビングの期間に食べたホームメイドな食事はとても美味しかったです。アメリカの食は、日本でいう大豆くらい芋を使います。じゃがいもを食べなかった日はなかったのかと思うくらい毎日じゃがいもを食べていました。それに加え、アメリカ人はアイスを手で食べたり、蛍光色をしたケーキを食べたりするイメージを持っている方も多いのではないのでしょうか。これもあながち間違いではありません。実際蛍光ブルーのケーキは売ってありますし、アイスも常に食堂にあります。アイスはとても美味しくて大好きだったので、授業終わりにおやつとして食べに行っていました。デザートもたくさんあるのですが、何度か見た目に騙されました。とても甘いのです。砂糖を固めたのかと思うくらいの甘さで、ビターと銘打ってあるものでようやく日本のミルクチョコレートくらいです。日本に帰ってきて食べた日本のチョコレートの美味しさに感動したものです。もちろん悪いことばかりではありません。ケンタッキーやマクドナルド、バーガーキングなど、日本でもなじみのあるファーストフード店も多く点在するので、日本と完全に同じというわけではありませんが、自分の知っているものを食べることもできます。アメリカ人とのカンバセーションで、「アメリカに来て何が大変？」と聞かれたら、まず「food」と答えるくらいには食に苦労しましたが、今思い返せばその苦労も大切な思い出です。